令和元年１１月２０日

里ちゃんだより

里庄町教育委員会
電話　0865-64-7212

教育長あいさつ

里庄町教育委員会　教育長　杉本　秀樹

町民の皆様方には、教育行政の推進につきまして、何かと大変お世話になりまして心より感謝申し上げます。２学期もはや３ヶ月が過ぎ、あと１ヶ月を残すのみとなりました。各学校園の子どもたちは元気に過ごしています。これもひとえに学校園の取り組みに対しまして、家庭、地域の皆様のご理解とご協力のおかげであります。心より感謝申し上げます。

教育を考えるつどいの様子

先日の教育を考えるつどいでは、多くの皆様に参加をしていただき、誠にありがとうございました。「学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす」～と題して、講師の方にご講演をしていただきました。その中で、非認知能力が子どもたちの成長に大きく関わっていることや、学校と家庭、地域が同じ方向を向いて子どもたちを育てていくことの大切さを教えていただきました。

今後とも皆様のご理解とご協力を仰ぎながら、学校教育・生涯学習のさらなる推進を図ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

里庄町教育を考えるつどい　令和元年１０月２６日（土）
里庄総合文化ホール　電動中ホール

講師　岡山大学全学教育・学生支援機構　准教授　中山　芳一　先生
演題　「学力テストで測れない非認知能力が子どもを伸ばす」

～これからの時代は、非認知能力に焦点を当てて子どもたち育てていく必要がある～

中山先生は、これから AI（人工知能）が急速に発達していく世の中で、認知能力（知能指数などの数値化できる能力）の分野は AI に任せ、これからは、人間にしかない思いやりや協調性、自制心・忍耐力・自信・意欲・コミュニケーション力など点数化できない「非認知能力」を重点的に育てていくことがとても重要性だと説明されました。そのためには、我々大人たちが子どもたちの様子しっかりと見て、様々な体験をする中で発揮された非認知能力に気づき、認めることが大切だということです。認められた子どもは、自らその力をさらに伸ばしていきます。非認知能力を伸ばすには、このように周りの大人が行う意識付けがポイントになるのです。　（文責　指導主事　天野正彦）

里庄町の子どもの学力は？（全国、岡山県学力・学習状況調査の結果より）

全国学力・学習状況調査（小学６年生、中学３年生）全体としては、ここ数年、全国平均と比べてよい年もあれば、やや低い年もあり、特に大きく心配する状況は見られません。今年度は、小学６年生と中学３年生の両方で全国平均を上回りました。

岡山県学力・学習状況調査（小学３年生～５年生、中学１年生～２年生）では、小学校は、学年により傾向は異なっており、国語は県平均を上回る学年とやや下回る学年がありました。算数も県平均を上回る学年とやや下回る学年がありました。中学校も学年により傾向は異なり、国語は県平均より上回る学年とやや下回る学年がありました。数学も県平均より上回る学年とやや下回る学年があります。英語は県平均よりもやや下回りました。

今後も、子どもたちのよさや頑張りを的確に認め、自己肯定感を育みながら、一人ひとりの子どもたちがもっている力を、さらに伸ばしていくことが大切だと考えています。

〇よくできているところ：漢字・計算など基礎的な内容
★課題と考えているところ：目的に応じて文章を書いたり、説明したりすること。

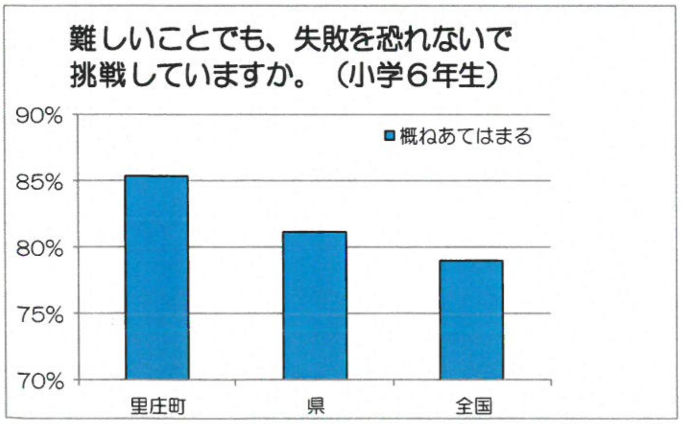
里庄町では小学校と中学校が連携して、**学力向上の重点目標**を次の３点に決めて、充実を図っています。

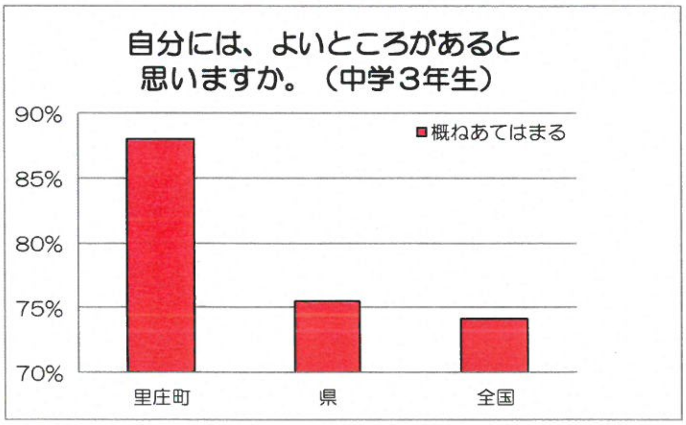
①基礎・基本の徹底　**②表現力の育成（書く力）**　**③家庭学習の充実**

今後も、学校・家庭・地域で力を合わせ、「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」の育成に全力で取り組んでまいります。

（文責　指導主事　天野正彦）

里庄町の子どものよさは？（全国、岡山県学力・学習状況調査の結果より）





裏面に続く

里庄町の小学６年生は、岡山県や全国の子どもと比べて、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」と、回答した子どもが多いという結果でした。また、里庄町の中学３年生は、「自分には、よいところがあると思う。」と、回答した子どもが多いという結果になりました。難しいことに出会ったときには、大人でもやる気が低くなったり、自信がなくなったりすることがあります。しかし、里庄町の子どもたちは自分の可能性を信じて「挑戦しよう！」という前向きな気持ちをもっている子どもが多く、大変頼もしく思います。

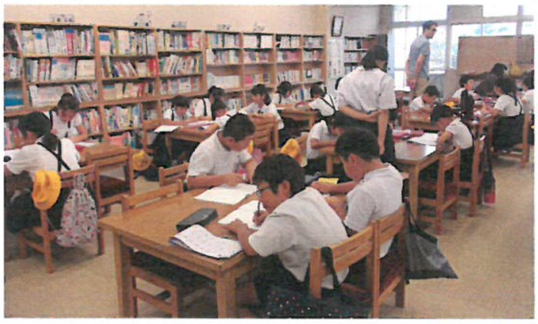
また、自分のよさに気づいている子どもが多いということは、里庄中学校が意識して指導を行ってきた「自尊感情を高める」ための教育活動が、見事に子どもたちに根付いてきている証拠です。そして、自分のよさに気づいている子どもが多いということは、自分に自信をもち、よさを発揮することで、よりよく成長することができます。さらには、周りの人にも優しく接しながら、自分の生活を豊かにしていくことにも繋っていくことだと考えます。自分自身を高めていくことはもちろんのことですが、周りの人と支え合いながら成長していくことのできる、知徳体のバランスのとれた、たくましい子どもに育ってほしいと思うと同時に、これからも、この気持ちをもち続けて成長していってほしいと願っています。

（文責　指導主事　天野正彦）

小学生との交流（学習支援ボランティア）

里庄中学校長　池田　敬治

里庄中学校では、夏休み期間を利用し、里庄東小学校、里庄西小学校に３日間ずつ出向き、学習支援ボランティア活動を行っています。今年は２３名の中学生が、小学校へ出向きました。参加した小学生に対し、年齢の近いお兄さん、お姉さん先生として、一生懸命、学習支援を行いました。



参加した中学生に対する事後アンケートでは、参加した全員が「とても楽しかった」「楽しかった」と回答した反面、約７４％の生徒が教えることが「とても難しかった」「難しかった」と回答しました。

学習支援ボランティアの様子

次年度に、ボランティアに参加する生徒に対し、「困っているような子がいたら、「ここ難しい？」や「１人で解けそう？」など自分たちから声をかけて、質問しやすい空気をつくってあげるとよい。」というアドバイスもあり、小学生との交流時だけでなく、日頃の中学校での授業中においてのクラスメイトに対する支え合いの心の勉強にもなりました。

年明けには、小学校６年生に対し、新入生説明会を行うとともに、中学校での授業体験も計画しています。小学生がスムーズに中学校生活をスタートできるよう、今後も小中連携を大切にしていきたいと思います。

異年齢交流の取り組みについて

里庄東幼稚園・小学校長　松原　修

1～6年生のファミリー遊びの様子

昔に比べて地域において異年齢集団での遊びが見られなくなったと言われます。そこで学校・園では意図的に異年齢での交流の場を設けています。里庄東小学校では、日々のファミリー給食の他に、そのファミリーで遊ぶ「ファミリー遊び」を年数回行っています。また、年度初めの１年生を迎える会でもファミリーでの活動を多く取り入れるなど、１年生から６年生までの交流の場を設けています。

幼稚園・保育園との交流も行っています。里庄東幼稚園と計画した「昔遊び交流」や「虫取り交流」では、年長児と１年生が竹馬・こま回しや、園北側の草むらでの虫取りを楽しみました。また、１年生の生活科では、楽しいお店に東幼稚園と里見保育園の年長児を招いて交流する「秋の会」を行いました。５年生は総合的な学習の単元で、幼稚園と保育園の年長児との交流を計画しました。１学期には両園の園児を体育館に招いて全員でゲームや遊びコーナーで楽しみ、２学期には「つばきの丘運動公園」にハイキングに行き、自然の中で遊んで交流を深めました。

幼稚園では毎月の「誕生会」をはじめ、年長児と年少児が一緒に活動することが多く、さまざまな場面で日々交流を深めています。

このように学校・園では異年齢での交流を通して、年長者が年少者との関わり方を学び、年少者が年長者に憧れの気持ちをもったり、進級進学に期待を抱いたりすることを期待しています。

これからも異年齢での関わりを大切にしたいと思います。

誕生会後の月見団子づくりの様子

保育園・幼稚園との交流について

里庄西幼稚園・小学校長　柚木　康男

里庄西小学校では、１年生が、かすみ保育園・里庄西幼稚園の年長児と交流する「なかよし会」を行っています。本年度は、１学期にそれぞれの園を訪問し、国語科で学習した「おおきなかぶ」の劇を発表したり、運動会で行った玉入れを一緒にしたりしました。

２学期には、生活科の学習「あきみつけ」で見付けた葉っぱや木の実を使って遊ぶ「あきランド」を開き、小学校に園児を招待して一緒に楽しみました。１年生にとっては、学習の発表の場であり、園児にとっては、小学校の学習にふれ、小学校入学への期待をふくらませる機会の一つとなっています。

２学期「あきランド」の様子

里庄町では、平成３０年度から保幼小接続カリキュラムをスタートさせています。これは、幼児教育と小学校教育のよさをつなげ、保育園や幼稚園での「学びの芽生え」から、小学校（主に第１学年）での「自覚的な学び」へと円滑な接続ができるように作成されたものです。

里庄西小学校では、かすみ保育園・里庄西幼稚園との接続カリキュラムに沿って進めています。保育園・幼稚園と小学校のカリキュラムをつなげていくことで、子どもたちが小学校へスムーズに移行できるように工夫をしています。